

令和3年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000758		
法人名	社会福祉法人ウエル清光会		
事業所名	グループホーム利倉清豊苑		
サービス種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市利倉3丁目4番地19号		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2794000758-00&ServiceCd=320&Type=search](http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2794000758-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3-9-27(PLP会館3階)		
訪問調査日	令和4年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流として、例年は地域のお祭りやイベントの参加、近隣小学生の来苑、歌などのボランティアに来ていただいていたのですが、コロナ禍において制約があるものの施設内で予防対策をしっかりとったうえで季節イベントや食事(献立)の工夫やテラスの活用など施設内であっても少しでも季節感を感じていただける取り組みに転換し、施設内で過ごしていただくうえで安心感や役割など不安症状や帰宅願望といった認知症の周辺症状を軽減できるようなアプローチを実施しています。また日常の何気ない生活の中でも、食事の用意やテラスの野菜の収穫などお手伝いいただくことで、役割作りややりがいを感じていただくことで生活に張りを感じてもらえる工夫もしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5周年を迎えた2ユニットのグループホームは、同法人の複合介護施設の4階にあります。共通の玄関を入ると「癒し犬」あずきちゃんが迎えてくれます。館内には特別養護老人ホームやデイサービスなどがあり、同法人のクリニックとも連携して施設内でサービスが完結できるのが強みです。コロナ禍で楽しみ事が制限されるなか、外気に触れる機会を増やすよう努め、広大な屋上で花や野菜を育てたり、間近に迫る飛行機を見ながらティータイムを持つなど、気晴らしの支援をしています。施設内でのクラブ活動も始め、他のサービスの利用者と共に書道やフラワーアレンジメントを楽しんでいます。月1回個別に作成する「ふれあい通信」は、写真が満載で日々の様子が窺えます。今年度、3例の看取りを実施しました。職員は、看取りの経験で連帯感が強まったと実感しています。更なるステップアップが期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を全職員で共有することで、ご利用者様、同僚、家族や地域社会の幸福を意識して行動するよう朝礼での唱和、フロアへの掲示を行っている。 またそれとは別にグループホームの理念も掲げ、それを行動に反映できるよう意識付けを行っている。	法人の理念を基に、グループホーム独自の理念を制定しています。「いつもの時間を提供します」というフレーズを4階の入り口に掲示し、共有するとともに周知しています。法人の理念は毎朝唱和しており、職員全員に浸透しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通常なら地域のイベントや地域会議への参加をして情報交換や、近隣の小学生との交流会やボランティアサークルの方にも来てもらい交流を行うようにしていたが、コロナの影響から今年度は実質行えていない。	コロナ禍で今年度は地域との交流はできませんでした。例年は事業所の夏祭りに参加してもらったり、小学校の行事に招待されたりしています。ボランティア活動も休止しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	通常なら運営推進会議を開催して、地域住民の方や民生委員の方に事業所の情報をお伝えしていたが、今年度はコロナの影響で開催できていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は開催できていないが例年だと入居状況、事故件数や行事の報告などを行い、会議参加の方からご意見、ご要望などをいただくように努めた。 会議記録を作成、設置し、閲覧できるようにしている。	前年度は1回開催できましたが、その後は新型コロナウイルス感染防止のため、行っていません。例年は、自治会長・地区会長・福祉委員・民生委員・包括支援センター職員・同法人他事業所の職員などのメンバーで活動報告や事故報告を行っています。	コロナ禍で先が見えないなか、対面以外での開催方法の検討が望まれます。資料を送付し、意見を返信してもらったり、オンライン開催の検討をしてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	例年だと担当の方に運営推進会議に参加いただいていたが、コロナの影響によりZoom会議にて7月には中部地域福祉ネットワーク会議に参加したり、その中で地域交流室の活用方法についても断続的に相談している。	市が主催する、福祉ネットワーク会議にオンラインで参加しています。福祉の他業種職員や自治会長、民生委員など多数が参加し、コロナ禍で直面している事などの話し合いをしています。介護保険の申請時は市役所に向かっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規定や重要事項説明書に記載しており、入居の際にも身体拘束を行わないことの説明を行っている。 職員には年に一回を基本に適宜研修しており、身体拘束防止委員会を設置して会議を月に一回行い、全職員が周知できるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会が法人内にあり、グループホーム職員が参加しています。月1回開催し、会議録は全職員に回覧して周知しています。現在、身体拘束の事例はありません。エレベーターにはナンバーロックがかけられています。今後外せる時間を持たないか検討する予定です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置して、月に一回開催している。 年に一回を基本に適宜施設全体研修も行うことで、徹底周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談の際には、必要に応じて説明を行うようにしている。 また年に一回、施設全体研修も行うことで、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、書面を提示しながら説明を行い、伝わりにくい点やご不明な点などあれば、繰り返し説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設エントランスに「意見箱」を設置しての聞き取りや、郵便物に「意見書」を同封して返信いただいたりなど、ご意見や苦情などを施設全体でも共有し報告書を作成することで改善するよう努めており、苦情委員会も設置している。	コロナ禍で開催はできていませんが、例年は年2回、家族会を行っていました。運営推進会議にも参加してもらい、意見聴取をしています。現在は家族との面談もできず、電話で意見・要望を聞いています。	事業所開設から5周年の節目の年を迎えています。一度、満足度調査やアンケート調査を行ってはいかがでしょうか。自由記載欄を設けて、率直な意見聴取ができるよう期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適時、個別職員面談を実施、また月に一回のフロアカンファレンスを行い、意見や提案を言いやすい環境作りに努めている。	各ユニット会議と全体会議を月1回行っています。その他法人の5つの委員会に参加し、専門的に検討しています。意見が出しやすい職場環境です。食事摂取が困難になった利用者に、職員の提案で口腔マッサージなど五感の刺激を行い、改善できた事例があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	日頃の勤務状況や資格取得サポートを導入して、評価を行っている。 また個別に毎年目標を設定し成長していける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に法人の新人研修に参加、また外部研修参加や資格取得のための補助金制度など知識の習得を目指す機会や支援を行っている。 またリーダー職に対してはリーダー研修も別途実施し「教える側になれる」研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、サービス部会や地域ネットワーク会議の参加を通じて交流を図っている。 また定期的に情報交換会を行ったり、こまめに情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランやサービス内容に意向を反映できるように、本人やご家族の困りごとや要望に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場になってお話を聞き、困っていることやご要望などに一つひとつ対応することで関係性を構築していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族がそれぞれの立場で必要とされているサービスについて提案を行なう。 また専門職からご意見をいただき対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者、ご家族に対しての接遇マナーを基本としてコミュニケーションを行なうよう指導、研修をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時や問題が起こった際に連絡を行い、その都度お伝えしている。 またご家族からの要望を伺いサポートするよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力をいただきながら、外出や外泊支援をしていたが、今年度はコロナの影響でお控えいただいている。 可能な限り今まで通院していた病院や理髪店など馴染みのある施設が利用できるよう援助している。	本人や家族による聞き取りで、馴染みの場所や人の把握をしています。コロナ禍で現在は家族との面会もできないので、電話をしてもらったり、オンライン面会の支援をしています。家族の介助で、行きつけの美容院や、かかりつけの眼科などへ行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、会話や共通の趣味活動、クラブ活動(書道、フラワーアレンジメント)などを通じて関りが深めていけるよう職員が仲立ちをしていく。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してのご利用者から相談があれば、誠意をもって対応を行なうよう支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人意向の聞き取りが困難な場合は、ご家族などの関係者から情報収集を行うよう努め、その際には日々の言動や表情から思いが読み取れるように記録を細かくとれる工夫を行っている。	居室担当職員がおり、利用者を細やかに支援することで思いや意向を把握しています。 新たな気づきは、ユニット会議やケア記録で共有しています。食べたいもの、行きたいところ、会いたい人、やりたい事の掘り起こしに努めています。	介護支援専門員は、利用者の思いや意向の把握により、より本人本位の計画作成につなげたいと考えています。得られた情報が、活きた計画に反映できるよう期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の理解を深めるために、以前の生活の様子などを介護計画作成に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の生活記録を活用して、その方の状況把握ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の個別記録を基にサービス内容を把握して現状に即した介護を行っている。また居室担当制を導入しており、随時モニタリングも実施している。	介護計画は、基本6か月に1回見直しをしています。担当職員を含め、ユニット会議で検討し、本人や家族の希望を基に作成しています。担当職員が実施の記録からモニタリングを行い、新たな計画につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録やユニット日誌を記入することで、情報の共有化を行っている。またカンファレンスを行い、話し合った内容をケアに反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の身体状況や心境の変化において、想定していなかったことへの対応は、出来る限り応じるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活歴、利用していた施設や店など馴染みの関係を大切に、本人やご家族の希望をお聞きして、その都度対応を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にあらかじめ要望などをお聞きし、希望される医療機関に協力いただいています。緊急時などの有事や、相談があれば24時間連絡できる体制作りを行っている。	法人のクリニックから医師が月に2回往診、看護師が週2回訪問し健康管理を行っています。入所前からのかかりつけ医受診の希望が在れば可能です。通院は家族の同行受診を基本としています。家族の支援が難しい場合は相談の上、対応を考えて処理しています。夜間や緊急時には24時間対応できる体制が整っています。希望があれば歯科の往診も受け付けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師が健康管理チェックを行い、かかりつけ医との医療連携を行っている。定期訪問が週2回、緊急時など24時間連絡がとれる連携体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行った際、医療機関やご家族から経過や状態について情報をいただき、施設で対応できることなどをお伝えし、よりスムーズな退院支援ができるよう努めている。日程を調整してカンファレンスに参加させていただけるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご要望をお聞きし、本氏の状態や状況が変わった時には、その都度意思確認をして、具体的にどのようにすすめていくかを多職種で連携を行い取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期について説明し、本人・家族の意向を伺い書類を作成しています。重度化や終末期の状態になった場合は、再度本人や家族の意向を確認し、医師・看護師・職員・家族と連携し状況に応じて話し合いの場を設け、より良い最期を迎えられる様に支援しています。今年度は3名看取りを行いました。看取り後は、振り返りを行うことで、ステップアップに繋がっています。新卒の職員より、看取りの研修で得た知識が実践の場で活かされたとの報告もありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間・緊急対応マニュアルを作成し、職員がいつでも確認できるよう設置している。また活用できるよう定期的に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施して、避難できる方法や経路などを職員には周知しているものの、地域との協力体制は不十分ではある。厨房や倉庫に数日分の水、食料や介護用品などを備蓄し備えている。	消防署の協力を得て、年3回避難訓練を行っています。災害時のマニュアルも作成し、職員で周知しています。特にホームの地形がら、水害(浸水)時の対応に留意しています。備蓄は3階の倉庫に飲料水、食料品等3日分保管し、法人の栄養士が管理しています。近隣の協力体制は避難訓練のおりに声掛けを適宜行っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いや接遇マナーについて、研修を実施している。	入職時には個人情報の取り扱いや接遇マナー等法人のカリキュラムに沿って研修を行っています。特に言葉遣いには日頃より配慮し、不適切だと気づいた時には注意し合える環境作りに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の思いが伝えやすいような関係作りや環境作りを心掛け、その都度聞き取りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや状態に合わせてお過ごしいただけるよう生活記録から読み取り、ケア内容の見直しを行い支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でお選びいただけるような声掛け・支援に努めている。 ご希望があれば訪問理美容などの外部サービスを案内したり、物品購入の相談援助や対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みをお聞きして、メニューに反映させたり、一緒に準備、盛り付けや片付けなど、できること、やりたいことを提案しながら行っている。 また季節感を出すため行事などに合わせたメニューも提供している。	3食ホームのキッチンで職員が調理し提供しています。献立は利用者の嗜好など加味し管理者が作成しています。調理の準備や盛り付け、片付けなど利用者も出来ることを手伝うことで自信に繋がっています。誕生日の手作りのケーキや昼食をテイクアウトしたり、時にはバルコニーで花見弁当を食べる等食事を大いに楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭的なメニューを中心に、魚や肉料理を主菜にこんだてを考えている。 食事量や水分量を個別に記録して体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本氏の能力にあわせて援助を行っている。 必要に応じて、口腔状態を訪問歯科に診ていただくようにご案内している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を個別記録し、排泄用品や支援方法の検討を随時行い、できるだけトイレにて排泄できるよう話し合い、考察を行っている。	排泄チェック表やベッドに設置したセンサーシート(体動や睡眠状態を把握し記録)を活用し、随時声掛けしています。トイレでの排泄を基本とし、習慣づける事により排泄の自立に繋がるよう努めています。個々に適した排泄用品の選択や対応で、日中はオムツから布パンツで過ごせるようになった利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を個別記録して、主治医に相談を行っている。施設看護師とも連携し、日々の調整も行っている。 また食事や水分についても種類や効果などを検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めず声掛けを行い、本人の希望にあわせた提供時間、入浴介助を行っている。	週2回以上を目安とし曜日や時間は決めずに入っています。希望があれば、夜間の入浴や同性介助など柔軟に対応します。浴室は一般浴とリフト浴があり、ADL(日常生活動作)に合わせ安全に安心して入浴出来るように努めています。入浴剤の使用やゆず湯等の行事湯も楽しみの一つになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して入眠できるよう声掛けや要望に対応している。 またIT化にともない「眠りスキャン」を導入することで、眠りを阻害することなく安否確認やトイレ声掛けができるようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認して、追加処方や中止した場合など体調変化がないか記録しモニタリングに努めている。 管理や服薬方法などの指導を、薬剤師の方に協力いただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材盛り付け、食器洗い、トレー拭き、洗濯物たたみなどの生活要素や歌唱や体操などのレク要素など、本人の関心や能力に応じた役割や楽しみを支援できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年ならご家族の協力をいただきながら買い物や外食など個別の外出支援を行っていたが、今年度はコロナの影響で最小限に控えていただいている。	コロナ対策で外出等は殆どできていませんが、1月には近くの神社に初詣に行きました。屋上の庭園は、家庭菜園や草花の水やりや野菜の収穫を行ったり、ベンチで外気浴を行うなど気分転換やストレス発散の場所として活用しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人のご希望やご家族の同意を得るようにして個人管理されている。金銭管理が困難な方は、ご家族に管理いただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご要望があれば、対応や取り次ぎを行っている。また手紙やはがきのやり取りもできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	主な共用場所であるリビングには、テレビ、大型加湿器やソファなど快適で落ち着いたような環境作りに努めている。	リビング兼食堂は広々としており、明るく、清掃も行き届いています。安全に動けるよう導線を考え、テーブル等の配置を工夫しています。大型の加湿器やテーブルにはアクリル板を置くなど感染症対策にも配慮し、食堂の椅子以外にソファも2台設置し、ゆっくりと落ち着いて寛げる場所になっています。※感染予防のため施設内は聴き取りとリモート視察	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫して、利用者様が各々過ごしやすいような空間の提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ入居前の生活に近づけることのできるよう馴染みがあり使い慣れた家具や物品などを持参されるようお話している。	居室には家族と相談し、使い慣れた桐のダンスや家族写真、好みの野球選手のフォトブック等持ち込み、安心して過ごせる居心地の良い部屋になっています。※感染予防のため施設内は聴き取りとリモート視察	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境整備としては、動線に配慮しながら家具やベッドの配置を工夫している。		